



取扱説明書

運転操作及びデータ



取扱説明書 第1部

運転操作及びデータ

VW 1200
VW 1200LS
VW 1300S

1973年8月版

ヤナセ

総輸入元 株式会社ヤナセ
フォルクスワーゲン・アウディ事業部

目 次

はじめに	3
安全性について	4
運転操作	
キー、ドア、ウインド	6
シート	7
計器盤	8
ステアリング ロック/ スターター スイッチ	9
スピードメーター、燃料計	10
方向指示器及びビーム切換えスイッチ、 非常点滅表示灯スイッチ	11

ライト スイッチ、ルーム ミラー、 ルーム ライト	12
ウインドシールド ワイパー、 ウオッシャー装置	13
スライディング ルーフ、サンバイザー、 熱線式リヤ ウインド	14
灰皿、グローブ ボックス	15
フレッシュ エア ベンチレーション	16
ヒーター	17
シフト レバー、ハンドブレーキ	18
燃料補給、ウインドシールド ウオッシャー コンテナー補充	19

ブレーキ オイル リザーバー、 エンジン オイル レベル	20
エンジンの始動	21
警告灯	22
トランク ルーム	23
ラジオ	26
シート ベルト	28
セレクトアー オートマチック	30
データ	
テクニカル データ	36
識別プレート、シャシー 及びエンジン ナンバー	41
車についてのクイズ	42

フォルクスワーゲンをご愛用いただく皆様へ

このたび弊社を通じ、世界の国民車として、定評のあるフォルクスワーゲンをお買上げいただき誠に有難うございました。

ご承知の如く、フォルクスワーゲンは自動車設計の天才 故フェルディナンドポルシェ博士とその協力者により創り出されたユニークな経済車ですが、戦後前社長ノルドホフ博士の優れた指導のもとに、今日の様な世界的商品となった車です。

弊社においても、全国各地にあるヤナセVWサービスネットワークを通じ、アフターサービス及びスペアパーツの供給に万全を期す所存ですが、万一お気付の点がございました場合は、お気軽に最寄りの販売店及び指定サービス工場にご指示下さいませお願い申し上げます。

尚、この取扱説明書はフォルクスワーゲン社の許可を得て弊社にて和訳の上印刷したものです。基本的に欧州にて販売されるモデルを対象としておりますため、日本向けの車の仕様の面で挿入写真が文章内容と相違するものがありますことを、あらかじめお断わりしておきます。ご不審の向きは、最寄りのフォルクスワーゲンサービスにお立寄りの上お確かめ下さい。

1973年9月

ヤナセ

総輸入元 株式会社ヤナセ
フォルクスワーゲン・アウディ事業部

お買い求め戴いたあなたの新車フォルクスワーゲンについて、出来るだけ早く充分な知識を得た上で自信をもってドライブにお出かけください。その為にも是非2冊（第1部及び第2部）の取扱説明書を熟読してください。

取扱説明書の第1部“運転操作及びデータ”では、レバーやスイッチ、ノブ等の操作方法並びに計器や警告灯の機能について説明してあります。又後半には車の主なテクニカルデータが記してあります。

第2部にはその表題どおり“運転方法、車のお手入れ及びご自分で出来る修理”について説明してあります。

さて、この2冊の説明書を充分お読みになれば、あなたは新車の取扱いがすぐ解り、全く安心してドライブなさることが出来ます。そしてどんな天候でも、悪路でも、また長距離ドライブにでも、フォルクスワーゲンは、最も経済的で信頼のおける車であることがお解り戴けることと思います。

これに関して、もう一つ重要なことはサービスレコードです。サービスレコードでは、フォルクスワーゲン・ダイアグノーシス及びメンテナンス システムについて説明してあり、定期点検時等の点検整備項目も記載されております。サービスレコードには、ダイアグノーシス用カード並びに保証書と保証条件がついております。

VWのサービス工場にお車を持って行かれる時は、必ずこのサービスレコードをお持ちください。そして、VWサービスの人々と早く顔見知りになって、大いにご利用ください。何かにつけてあなたのお役に立つことが多々あることと思います。

最初からサービスレコードに決められておりますサービスを受けてください。保証期間中クレームを行う場合には、メンテナンス整備が正しく行われていることが大変重要です。

この取扱説明書に掲げた写真と資料は、VW I300Sをもとにしています。VW I200及びI200 LSモデルについては、異った個所だけ各項目の後に夫々説明してあります。

この説明書に記載された備品やデータについては、予告なく変更することもあります。ご了承ください。

安全性について（この取扱説明書を読み終った後に、もう一度お読みください。きっとお役に立ちます。）

長年の間、VW社の技術陣は安全な車の開発という分野をリードしてまいりました。その研究の成果が、あなたのフォルクスワーゲンなのです。

あなたの愛車のデザインや各装備品には、必要な又実用的と考えられるあらゆる安全性が備わっています。万一事故の場合でも、あな

た自身の保護は勿論のこと、相手方の危険も少くなるよう、あらゆる「安全性」が考慮されております。

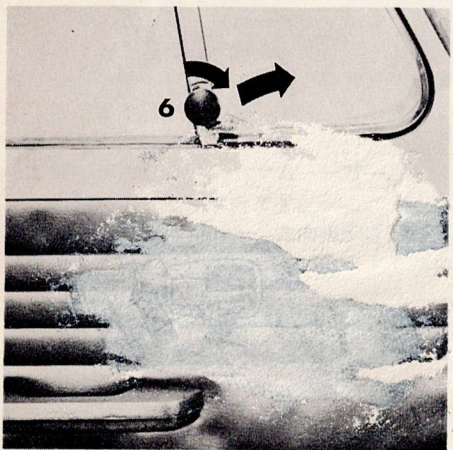
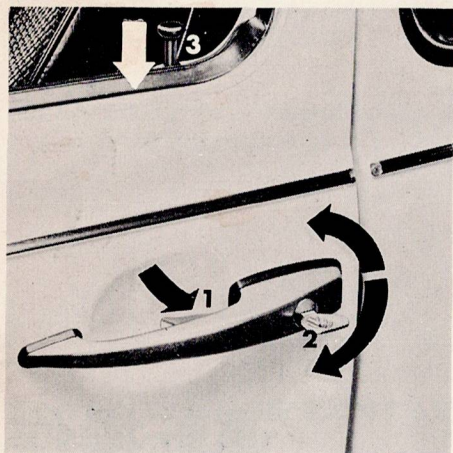
車の技術的な面は、苦手の方でも、注意深くお読みになれば、VWの細部にいたるまで一にも二にも可能な限り高度な安全性をもたらすように設計されているのにお気づきのことと思います。

フォルクスワーゲンの安全に対する配慮の数々をご説明しましょう。

- フロント、リヤとも全輪独立懸架。理想的なホイールの配置により、すぐれたロードホールディング、シャープで安定したコーナリング等安全走行が行えます。
- フロントのトランクルームに合わせた重量配分——リヤが下がることはありません。又、トランクに満載してもヘッドライトの位置は常に正確に保たれます。
- 二回路式ブレーキシステム——万一、一方の回路が故障しても、他の回路が働く仕組みです。
- 大型の明かるいテール、方向指示灯及びバックライト——後続車に対する配慮です。夜間バックする時には、まず安全を確認してください。
- 車内の安全性——フロント並びにリヤエンドは、衝突の際衝撃を吸収するように設計されています。
- インスツルメント パネル上の柔らかなコントロール ノブ類は、はっきりとシンボル マークで示されています。
- セーフティ ステアリング コラム
- フロントのセパレートシートはしっかりと固定され、バックレストとシートは調節できます。あなたの体格にピッタリのシートポジションをお決めください。
- パッド入りのサンバイザーが左右に2つ取り付けられています。
- 大きくて見易いアウトサイドミラー——衝突の際は曲がるようになっています。室内ミラーも衝撃の際はすぐ外れ、落ちます。
- 室内のドア ロック ノブは埋め込み式、又ドアの内側の壁並びにコントロール類、アームレスト等はでっぱりを少く、柔かい材質でカバーされています。
- ステップの形をした側面のプロテクション プレート。
- 引き金式の外側ドアハンドル——ハンドルの外面には凸起物がなく安全です。又、何かにひっかけてドアが開く心配もありません。
- ロータリーラッチを使用したアンチ バースト ドアロック。

運転操作

キー、ドア、ウインド



キー

1本のキーだけでドアの開閉、エンジンの始動そしてエンジン コンパートメントの蓋のロック操作ができます。



ドア

車外から——

ドアを開ける場合：ドア ハンドル内側の金具(1)を引きます。

ドア ロックの開閉：キーを差し込み、(2)のようにはめて開閉します。

キーを使わずにドアをロックする場合：ロッキング ノブ(3)を押し下げ、ドア ハンドル内側の金具を引きながらドアを閉めてください。

車内から——

ドアを開ける場合：リリース レバー(4)を引いてください。

ウインド

ドア ウインドを開閉する場合：クランク(5)を廻してください。

三角窓(6)

開ける場合：ロックが外れるまで、ノブを廻し、前方に動かします。

閉める場合：ロックを掛け、ノブを後方に廻します。

キー番号を控えておかれますと、万一紛失されましてもキー番号を伝えるだけでいつでもVW取扱店から、替りのキーが入手できます。

ロッキング ノブが下がったままドアがひとりでに閉まった場合でも、ロッキング ノブは自動的にとび出して来ますので、ロックされる事はありません。これでキーが車内にあるのにドアが閉まって、閉め出されるという事がなくなります。

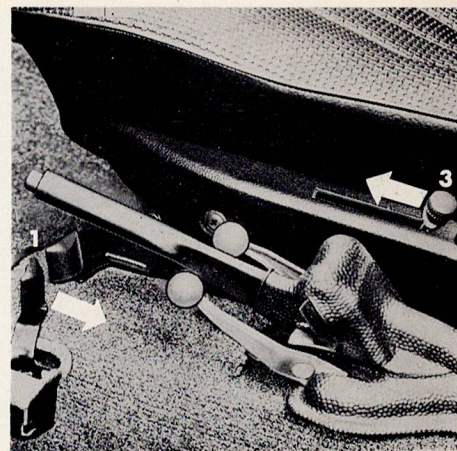
ロッキング ノブが下がっているとドアは、内外どちらからでも開けられません。

ドアを閉める前に窓を少し開けるようおすすめします。こうすれば車内の空気が逃げてドアは簡単に閉まります。

シートを調整したら、運転中にシートが動かないように、レバーが正しくストッパーに嵌っているかどうかを確かめてください。

シートの前後調整方法

中央トンネルについているレバー(1)をシートフレーム後方に引き、前後位置を調整します。



特注としてリクライニング シートの取付け車輛があります。

レバー(2)を持ち上げ、バックレストを止まるまで後方に押します。次にレバー(3)を前方に引っ張り、バックレストをお好みの位置に調整してください。

レバー(2)を戻します。

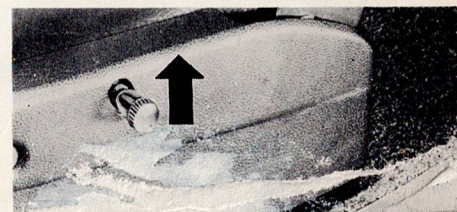
レバー(2)を持ち上げるだけでバックレストは元に戻ります。

助手席のバックレストを完全に倒した状態での運転、走行は非常に危険ですので固くお断りします。

バックレストの角度調整方法

外側のシート フレームについているレバー(2)を引き上げてバックレストの角度を調整し、最後にレバーを元の位置に戻します。

レバー(2)を持ち上げるだけで、バックレストは元に戻ります。

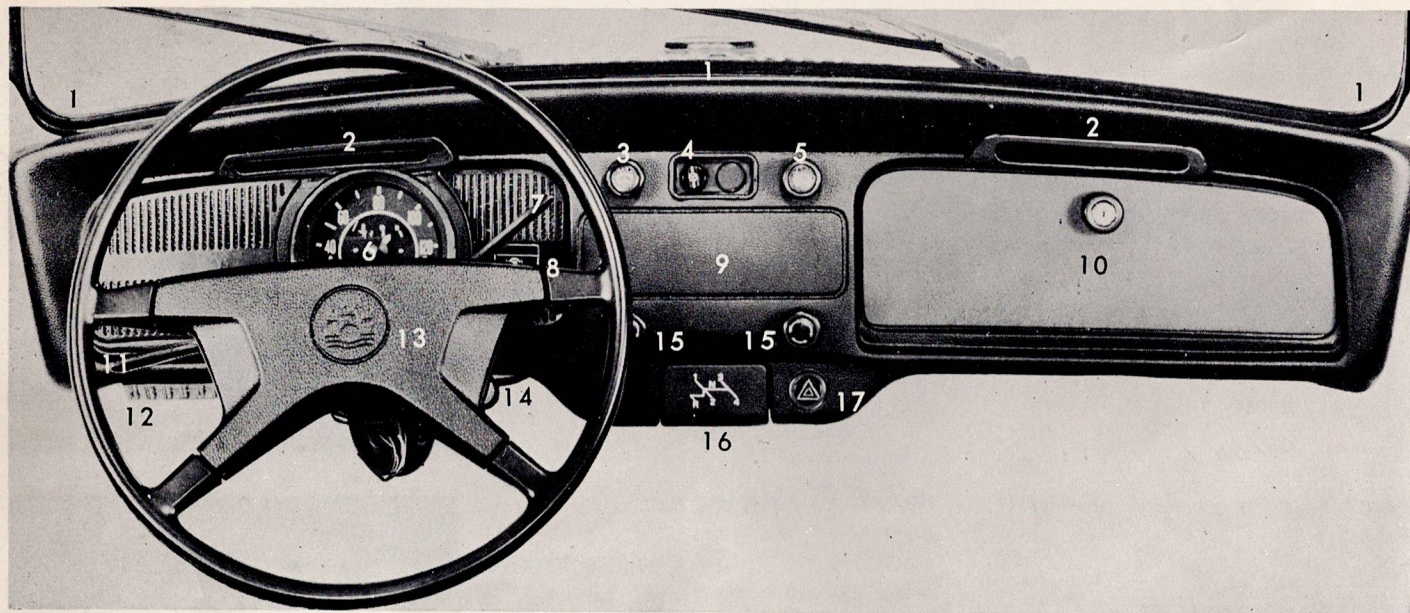


バックレストのロック

ノブ(4)を持ち上げ、バックレストを前方に倒しますと、自動的にその位置にとまり止す。元に戻す場合には、ノブ(4)をもう一度持ち上げてください。



計器盤



- | | | |
|---|----------------------------|-------------------------------|
| 1. デフロスター吹出口 | ー レバー (VW 1300Sのみ) | 13. ホーン (VW 1200/LSではホーン ボタン) |
| 2. 調整式フレッシュ エア及びヒーター吹出口 (VW 1300Sのみ) | 8. 二回路式ブレーキ及びハンドブレーキ用警告灯* | 14. ステアリング ロック/スターター スイッチ |
| 3. ウインドシールド ワイパー/ウオッシャー スイッチ (VW 1200/LSのみ) | 9. ラジオ取付部 | 15. フレッシュ エア調整ノブ (VW 1300Sのみ) |
| 4. フレッシュ エア ファン スイッチ* | 10. グローブ ボックス | 16. 灰 皿 |
| 5. ライト スイッチ | 11. 方向指示器及びビーム切換えレバー | 17. 非常点滅表示灯スイッチ |
| 6. スピード メーター及び燃料計 | 12. フューズ ボックス | |
| 7. ウインドシールド ワイパー/ウオッシャー | リヤ ウインド熱線スイッチ (VW 1300Sのみ) | |

*特注品

(VW1200/LSにはダッシュ ボードにパッドはついておりません)

ステアリング ロック/スターター スイッチ

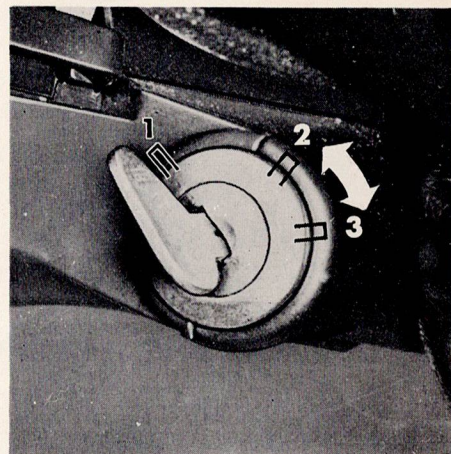
1 の位置でだけ、キーを差し込んだり抜いたり出来ます。

ロックを外すとき、キーが廻りにくかったり、全然廻らないようなときには、ステアリングホイールを軽く動かしてみてロッキング ピンを戻してください。

ステアリング イグニッション オン

キーの位置：

1. イグニッション オフ、ステアリングはロックします。
2. イグニッション オン、警告灯が点灯します。(22頁参照)
3. 始動 (21頁参照)

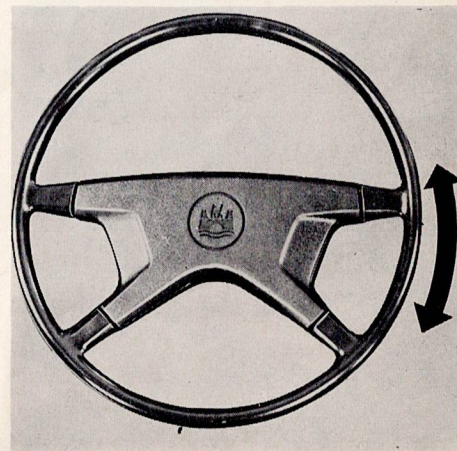


ステアリング ロック

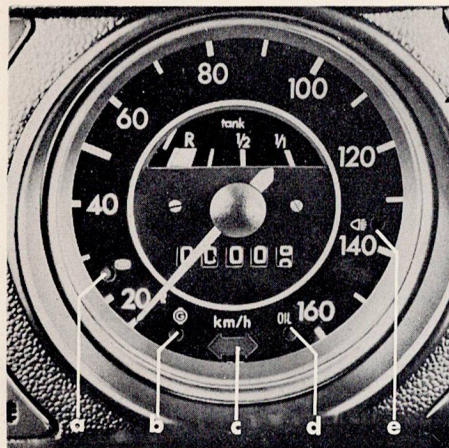
キーを抜き、ステアリング ホイールを少し廻しますとロックします。

〔ご注意〕

車が完全に停止してからキーを抜き取るようにしてください。



スピードメーター, 燃料計



スピードメーター

スピードメーターには次の警告灯が組み込まれています。

- a. リヤ ウインド熱線(VW1300Sのみ) 緑色
- b. 充電及びエンジン冷却 赤色
- c. 方向指示器 緑色
- d. 油圧 赤色
- e. ヘッドライト ハイビーム 青色

燃料計

燃料計はイグニッション スイッチの入っている状態でのみ作動します。指針が“R”マークの右端に来たら、タンクには約5リッターの燃料が残っていますので、早めに補給してください。

イグニッション スイッチを入れますと、油圧、充電及びブレーキ系統*の各警告灯が点灯し、エンジンが始動すると消えます。

ブレーキ警告灯が取り付けられている場合には、ハンドブレーキを外すと警告灯は消えます。

以上の各警告灯は走行中点灯しません。(22ページをご参照ください)

各ギヤの許容スピード

	VW 1200(1.2ℓ)	VW1200LS(1.6ℓ) VW1300S
第1速	0 ~ 25km/h	0 ~ 30km/h
第2速	15 ~ 45	20 ~ 60
第3速	30 ~ 80	35 ~ 95
第4速	45 ~ 115	50 ~ 130

経済的な運転速度は次の通りです。

	VW 1200(1.2ℓ)	VW1200LS(1.6ℓ) VW1300S
第2速	15 ~ 40km/h	20 ~ 45km/h
第3速	35 ~ 65	35 ~ 70
第4速	45 ~ 90	50 ~ 100

取扱説明書第2部の“経済的な運転”及び“燃料消費”の項をご参照ください。

*特注品

方向指示器及びビーム切換えレバー、非常点滅表示灯スイッチ

方向指示器レバーは、ステアリング ホイールが直進状態になると自動的に元の位置に戻ります。

方向指示器はイグニッション スイッチの入っている状態でのみ作動します。

方向指示器及びビーム切換えレバー

イグニッション スイッチを入れた場合：

レバーを上方に——右側方向指示(R)

レバーを下方に——左側方向指示(L)

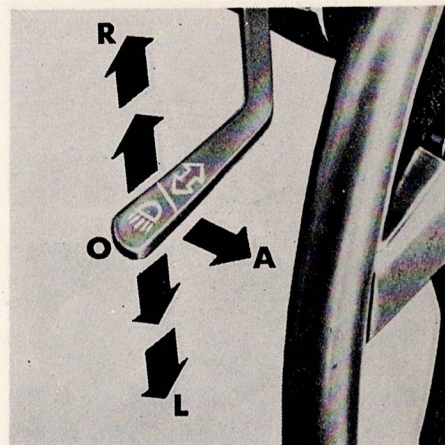
レバーが中立状態——方向指示器非作動(O)

車線変更の場合

レバーを上方あるいは下方にわずかに押えるだけで方向指示器は作動し、手を離すだけで自動的に元の位置に戻ります。

ステアリング ロックのかかっている場合：

レバーを上または下にすると前後4方向の駐車灯が点灯します。



ヘッドライトがハイビームの状態ではスピードメーター内の青色の警告灯が点灯します。

ヘッドライトフラッシャーは、スモールライトが点灯している時、またはライトが点灯していない時にだけ作動します。

ヘッドライトのビーム切換え

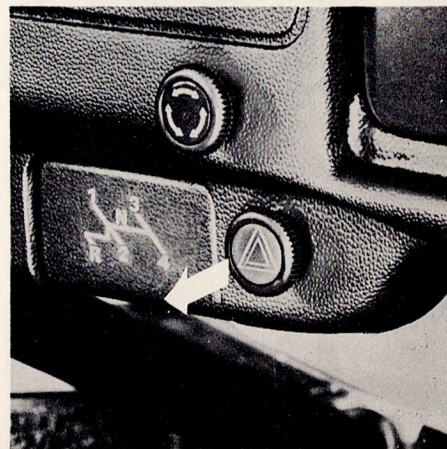
ヘッドライトフラッシャー

レバーをステアリングホイール方向(A)に引っ張ります。

ライトスイッチ

0又は1段：ヘッドライトフラッシャーが作動します。

2段：ヘッドライトのビームを切換えます。



イグニッションスイッチが入っていない時でもこの装置は作動します。

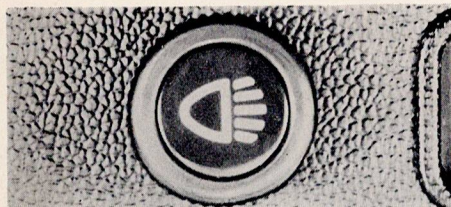
この装置は、緊急を要する場合例えば運転中道路の他の車に危険な状態にあることを知らせたり、車が走行不能になってしまった時に利用してください。

非常点滅表示灯スイッチ

作動させる場合——スイッチを引き出すと作動し、同時にノブの内部にもライトが点滅します。

4つの方向指示灯が全部同時に点滅します。

ライト スイッチ, ルーム ミラー, ルーム ライト



ライト スイッチ

ノブを引き出します。

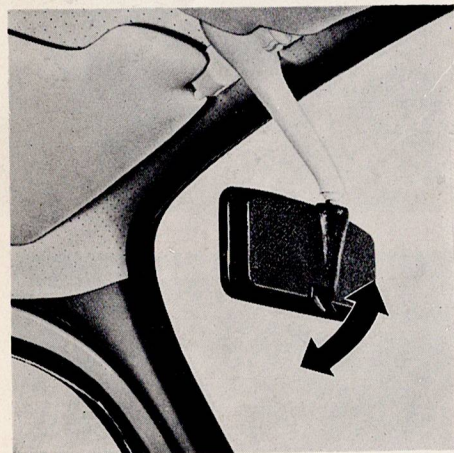
1 段——スモール ライト

2 段——ヘッド ライト

1 段目及び 2 段目の位置では、テール ライト、番号灯及び計器盤照明灯が点灯します。

計器盤の照明

ライト スイッチを左右に廻して照度を調節してください。



ヘッド ライトはイグニッション スイッチの入っている場合、またはエンジンのかかっている場合にのみ点灯します。

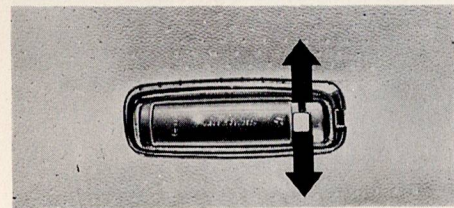
スターターが作動している間、そしてイグニッション スイッチが切れている時にはヘッドライトは自動的に消灯します。

長距離ドライブに出られる前には、各ライトの作動を確認してください。

ルーム ミラー

ミラーの裏側の小さなボタンを押すことにより、角度を変えることの出来る防眩式*です
ボタンを前方に押す——標準位置
ボタンを後方に引く——防眩位置

ミラーは安全性を充分考慮して取付けてありますので、衝撃が加わるとスプリングによって外れます。外れた場合には押し込めば簡単に取付けることができます。



ルーム ライト

スイッチの位置：

上——ドアが開いている時だけ点灯
中——常時消灯 (VW1300S のみ)
下——常時点灯

* 特注品

ウインドシールド ワイパー, ウォッシャー装置

ウインドシールド ワイパー スイッチ

VW1300S

レバーを(1)の位置にするとワイパーは、ゆっくり作動します。

レバーを(2)の位置にまであげるとワイパーは、速く作動します。

レバーが(0)の位置ではワイパーは、作動しません。

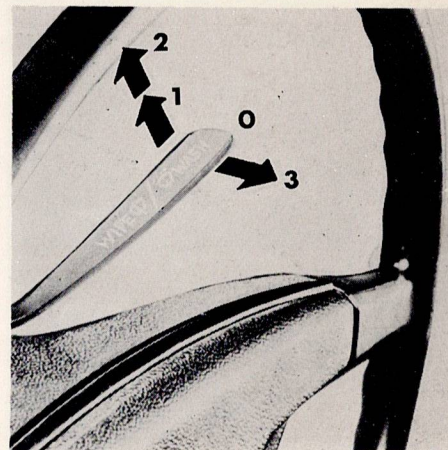
レバーを(1)の位置にわずかに持ちあげると、持ちあげている間ワイパーは作動し続けます。

VW1200/LS

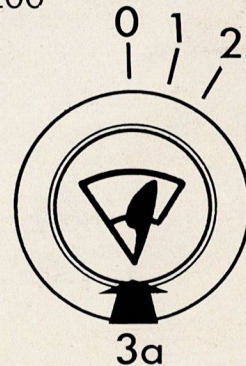
スイッチを(1)の位置まで右に廻しますと、ワイパーはゆっくり作動します。

スイッチを(2)の位置まで更に廻しますと、ワイパーは、速く作動します。

スイッチを左に(0)の位置まで戻しますと、ワイパーは止まります。



VW1200



ウォッシャーの操作

VW1300S

レバーをステアリング ホイール(3)方向に引いている間ウォッシャーは作動しています。

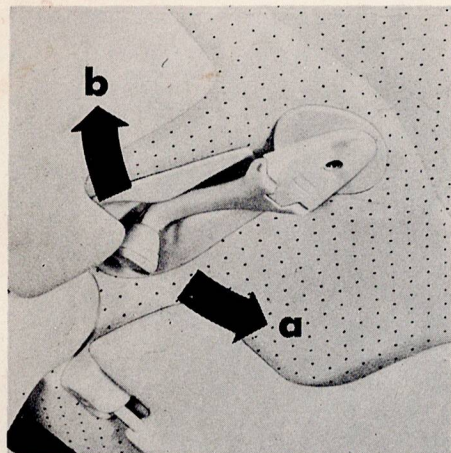
VW1200/LS

ワイパースイッチ内のノブ(3 a)を押している間ウォッシャーは作動しています。

注意

フロント ガラスが凍っている時にはワイパーを作動させる前にブレードがガラスに凍結していないかどうか確認してください。

スライディング ルーフ*、サンバイザー、熱線式リヤ ウインド



スライディング ルーフ*

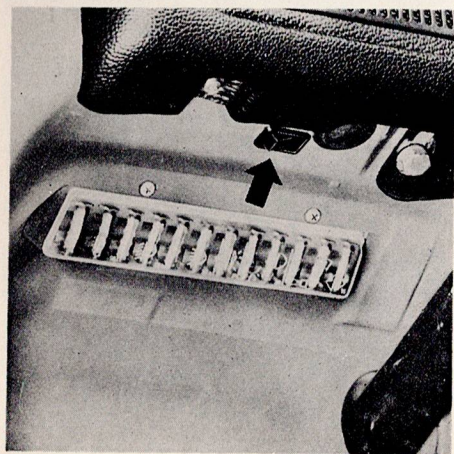
開ける時には、ハンドルを(a)の方向に廻してください。

閉める時には、ハンドルを(b)方向にいったいに廻し、少し戻してから凹みに格納します。

安全の為に、スライディング ルーフのハンドルはいつも必ず凹みの中に納めておいてください。

サンバイザー

ドライバー側のサンバイザーはセンター マウンティングから引き外し、ドア ウインドの方に廻して側面からの眩しい光を遮ぎることが出来ます。



熱線式リヤ ウインド (VW1300Sのみ)

ロッカー型スイッチを入れますと、リヤウインドの熱線が作動し、同時にスピードメーター内に緑色の警告灯が付きます。

電流消費量が多い為、リヤ ウインドがきれいになったらすぐにスイッチを切ってください。

*特注品

灰皿、グローブ ボックス

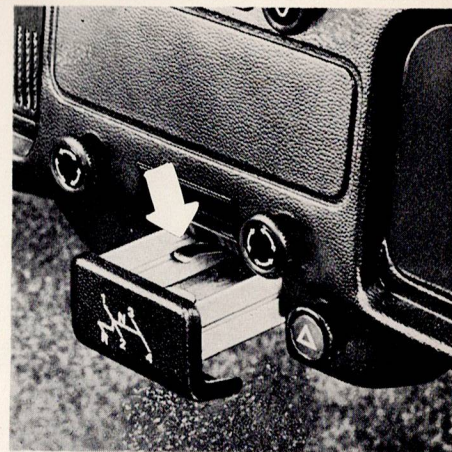
灰 皿

前席用灰皿

外す場合には、リーフスプリングを押し下げながら引き出してください。

後席用灰皿 (VW1300 Sのみ)

外す場合には、灰皿を開け、下に押します。
取付ける場合には、最初灰皿上部を入れ、押し込みます。

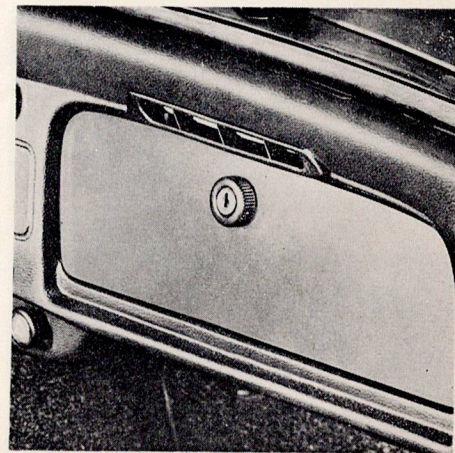


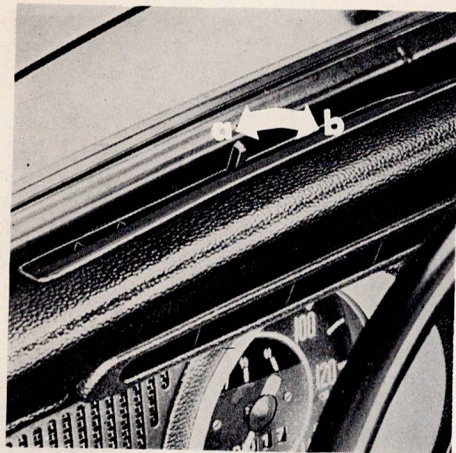
グローブ ボックス

グローブ ボックスの蓋の開閉
ノブを左に廻せば蓋は開きます。
押し込めば蓋は閉まります。

ロック付の場合(特注品)

キーを差し込んで左右に廻しますとロックの
開閉が出来ます。

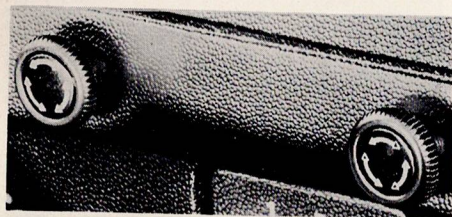




調整式フレッシュ エア及びヒーター吹出口
レバーを垂直に (a) — エアをウインドシールドに送り込みます。
レバーを右に (b) — エアを車内に送り込みます。

レバーは (a) (b) の間でお好みのようにセット出来ます。

ヒーター レバーを引き上げている時には、吹出口からは暖かい空気が送り込まれます。(次頁をご参照ください)

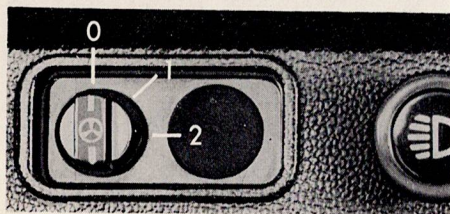


フレッシュ エア調整ノブ

左側のノブは左側吹出口用。

右側のノブは右側吹出口用。

ノブを左に廻すと、エアが送り込まれます。
ノブを右に廻していくと、流入するエア量が減り、わずかなひっかかりの時点から更に右に廻しますと、吹出口は完全に閉まります。



ファン スイッチ*

位置 0 — スイッチは切れています。

位置 1 — 低速回転

位置 2 — 高速回転

ファンを回転しておけば、車がゆっくり走っている時でも、また停止している時でも車内の換気は充分行われます。

*特注品

、吹
。(次

ヒーターレバーを引いている場合には、ウインドシールド下側の左右両端及び中央の吹出口から暖かい空気が出ます。

VW1300Sの場合には

調整式吹出口からも暖かい空気が出ます。

ウインドシールドの曇りを早く除去する場合

- レバー(1)を引きます。
- レバー(2)は下げておきます。
- 前部足元用吹出口のレバー(3)を前に動かします。

VW1300Sの場合には

- フレッシュ エア吹出口を閉めます。
- フレッシュ エア及びヒーター吹出口のレバーを(a)の位置にセットします。(前頁をご参照ください)

霜や氷が溶けてしまったら、フレッシュ エアのスイッチを入れて、濡れたガラスをす早く乾かしてください。

ウインドシールドの曇りがとれましたらすぐに普通シート用の吹出口を開き、車内がなるべく早くそして平均に暖まるようにしてください。

1. ヒーター レバー

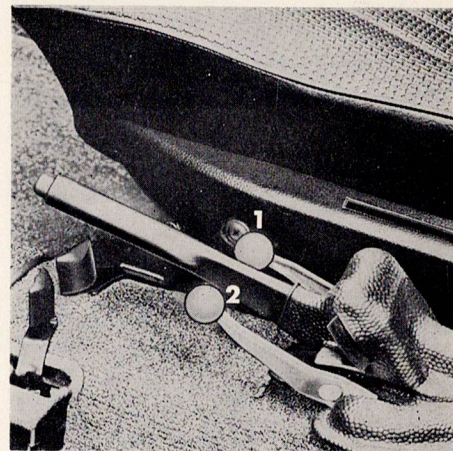
レバー上——ヒーターが作動します。

レバー下——ヒーターは切れます。

2. リヤ シート用ヒーター レバー

レバー上——吹出口が開きます。

レバー下——吹出口が閉じます。

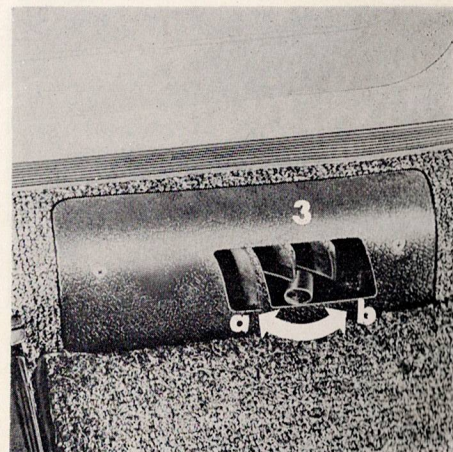


3. 前部足元用吹出口レバー

(フロント シート前部のサイド メンバーに取り付けられています)

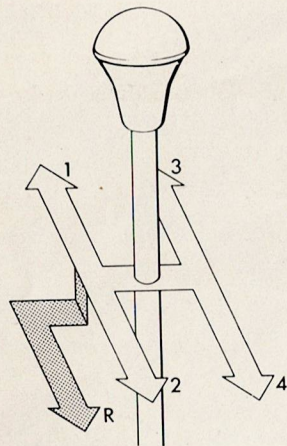
レバーを後(a)——吹出口が開きます。

レバーを前(b)——吹出口が閉じます。



走っ
車内

シフト レバー, ハンド ブレーキ

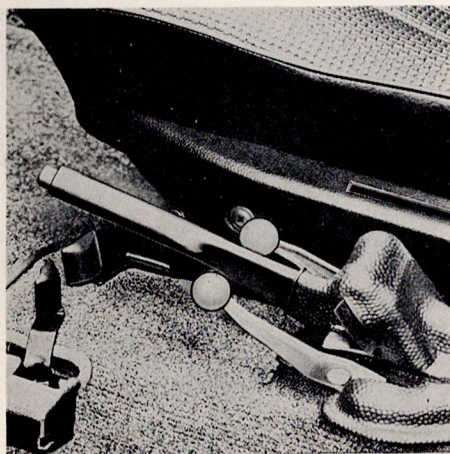


シフト操作

バック ギヤには、車が完全に停止してからお入れください。またバック ギヤに入れるには、ニュートラル位置でレバーを押し下げ、左方向に動かして手前に引きます。

セレクトー オートマチックの場合のシフト位置については30頁をご参照ください。

バック ギヤにシフトした時にだけ、バックアップ ライトが点灯します。



ハンド ブレーキ

ハンド ブレーキを外すには、レバーを少し持ち上げ気味にしてレバー先端のノブを押し込み、レバーを下げます。

ブレーキ警告灯*の付いている車輦では、イグニッション スイッチを入れた時に点灯し、ハンドブレーキを戻した時に消えます。(22頁をご参照ください)

*特注品

燃料補給について

- 蓋を開けます。
- キャップを左に廻して外します。
- 燃料を補給した後、キャップをはめ、カチッと音がするまで右に廻します。
- 蓋を閉めます。

燃料：銘柄品をご使用ください。

必要オクタン価：1.2リッター エンジン=87RON } レギュラー
1.6リッター エンジン=91RON }

もしレギュラー ガソリンのオクタン価が低い場合にはハイ オクタン又はレギュラーとハイ オクタンを混ぜて使用しても構いません。

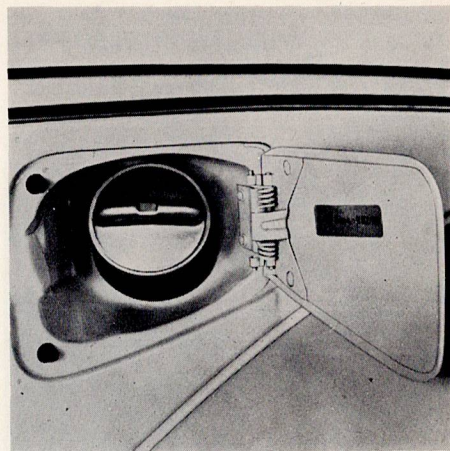
燃料量

燃料計については10頁をご参照ください。

燃料タンクには約3リッター分のエキスパンションが取り付けられています。

タンクの容量は約40リッターです。

注入口の口元まで燃料を補充した時に満タンになります。



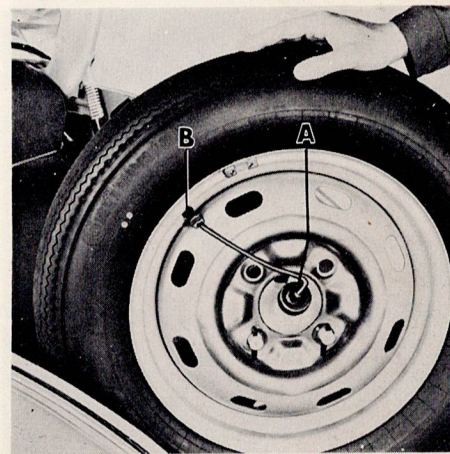
ウインドシールド ウォッシャー コンテナ補充

- キャップ(A)を取り外し、タンクに液を溢れるまで補充してください。約1.7リッター入ります。その後キャップはしっかりと締め込んでおきましょう。

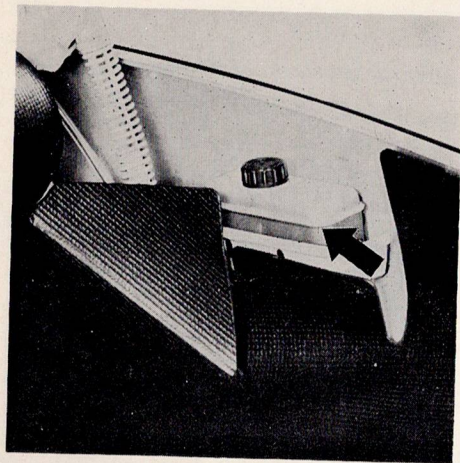
水だけでなくウインドクリーナーを混合されるようにお勧めします。ウインドクリーナーが充分に入っていますと冬期には不凍液の役目も果たします。

ウインドウォッシャーはスベアタイヤからの空気圧に依って作動します。スベアタイヤを常時使用可能の状態に保つために空気圧が 2 kg/cm^2 以下に下がった時にはバルブが働き空気の供給を止めますのでウインドウォッシャーが作動しません。このような時にはスベアタイヤの空気圧を点検してください。

- バルブ キャップ(B)を外し、スベア タイヤの空気圧を 3 kg/cm^2 にします。最後にキャップをしっかりと締め込んでください。



ブレーキ オイル リザーバー, エンジン オイル レベル



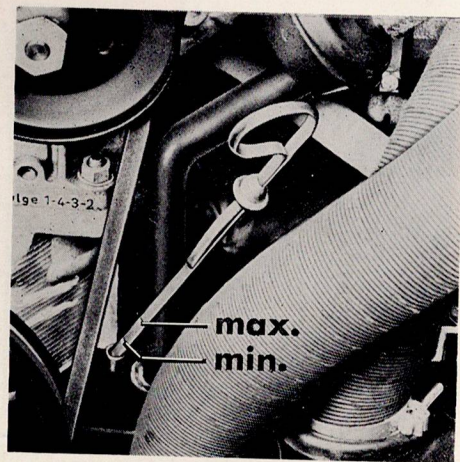
ブレーキ オイル リザーバー

ブレーキオイルのレベルはリザーバーの周りの接合部分より下がらないように保ってください。もし車を使用している間にレベルが接合部分以下になった時には、VWサービス工場にブレーキ系統の点検をお申付けください。

ブレーキ オイルは吸湿性ですので2年に1回必ず交換してください。ブレーキ オイルの交換作業が正しく実施されることが非常に重要ですので、是非ともVW指定のサービス工場で行うようにしてください。

ブレーキ オイルを補充する際には米国連邦自動車安全基準の116 DOT 3の規格に適合している新しいブレーキ オイルだけをご使用ください。VW純正ブレーキ オイルはこのVW販売店でもお求め出来ます。

ブレーキオイルは腐触性で塗装を損傷しますのでご注意ください。



エンジン オイル レベル

- 車をなるべく水平な場所におきます。
- エンジンをとめ、約5分間経過しますとオイルはクランクケース底部に下ります。
- オイル レベルを点検する前に先ずディップ スティックを抜き、きれいな布で拭いてください。
- ディップ スティックを一杯まで差し込み、もう一度引き抜いてレベルを点検してください。

オイル レベルは常にレベルゲージの二つのマークの間にあるようにし、下側のマーク以下には決してしないようにしてください。

(オイルの補充については、説明書第2部にも記してありますので、ご参照ください)。

ディップ スティックの上側、下側のマークのオイル量は1.25リッターです。

マニュアル トランスミッションの場合

- エンジンをかける前に、シフト レバーがニュートラルになっているかどうかを確認してください。

セレクトー オートマチックの場合

- エンジンをかける前に、セレクトー レバーがニュートラルになっているかどうかを確認してください。

気温が氷点以上の場合 (1)

- スターターを廻しながらアクセルペダルをゆっくり踏み込んでください。

気温が氷点以下の場合 (2)

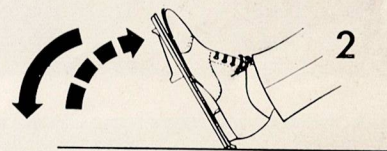
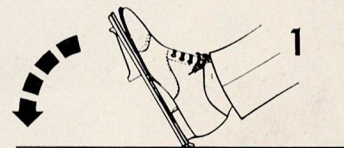
- スターターを廻す前に、アクセルペダルを一度いっばいに踏み込んで離してください。そうすれば自動チョークが働きます。
- クラッチペダルを踏み込みます。
- イグニッション スイッチを入れ、すぐに始動してください。

エンジンが暖まっている場合 (3)

- アクセルペダルをいっばいに踏み込んで、スターターを廻してください。踏み込んだり離したり「ポンプ」はいけません。

〔ご注意〕

- エンジンが始動したら、すぐにイグニッション キーを戻してください。
- 駐車したままアイドリングをしてエンジンを暖めることなど不必要です。すぐに出発して構いませんが、暖まらないうちに回転を上げすぎることは避けてください。



狭い場所でエンジンを廻すときにはご注意ください。通風をよくし、有害な排気ガスを逃がすようにしてください。

スターター ノン リピート ロック装置

エンジンが一度目で始動しない時、又は途中で停まったりした時には、イグニッション スイッチを一旦切ってからもう一度入れてください。イグニッション スイッチにはノン リピート ロック装置が付いていてエンジン回転中に誤ってスターターが作動し、損傷するのを防止しています。

イグニッション スイッチを入れると**警告灯**は点灯し、エンジンがかかると消えます。しかしハンドブレーキと連動になっているブレーキ警告灯はハンドブレーキ レバーを戻さなければ消えません。

走行中に充電警告灯が点灯した場合：

- すぐ車を止めファン ベルト又はフューズ ボックスのNo.12フューズを点検してください。
- ベルトが切れていますと、エンジンの冷却機能は停止するので、車を運転しないですぐにベルトを交換してください。ベルトのサイズ及び張り具合については39頁に記載しています。
- 他の原因でジェネレーターが充電作動を中止しても少し位は運転を続けることは出来ますが、すぐにバッテリーがあがってしまいますから、出来るだけ早くVWサービス工場へ車を入れてください。
- フューズが切れた場合には方向指示器が作動しませんのですぐに新しいフューズを取り付けてください。それでも尚フューズが切れるような場合にはVWサービス工場で点検を受けてください。

走行中に油圧警告灯が点灯、あるいは点滅した場合：

- すぐに車を止め、オイル レベルを20頁に記載されている要領で点検してください。
- 故障原因がオイルの量でない場合には、すぐにVWサービス工場にご連絡ください。

長距離の苛酷な運転の後で、アイドリング時に油圧警告灯が点滅する事がありますが、心配は無用です。エンジン回転を上げれば警告灯は消えます。

ブレーキペダルを踏み込んだ時にブレーキ警告灯が点灯した場合：

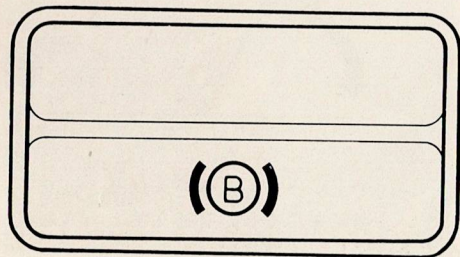
- 2つのブレーキ回路の一方が故障しています。

充分注意して車をVWサービス工場にお持ちください。ペダルを普段より強く踏み込む必要があり、制動距離も長くなりますので充分ご注意ください。

警告灯の点検方法：

- イグニッション スイッチを入れると警告灯がつきます。
- エンジンが始動するか又はハンドブレーキを戻すと警告灯は消えます。

イグニッション スイッチを入れても点灯しなかったり、エンジンが始動したりハンドブレーキを戻した時に警告灯が消えない場合は、電気系統が故障していますので、車をお近くのVWサービス工場へお持ちください。

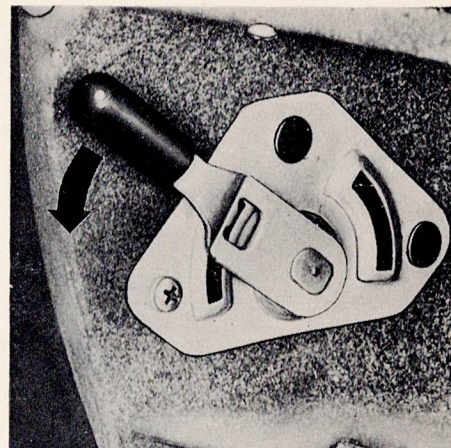


フロント トランク ルーム

荷物を積まれる際には

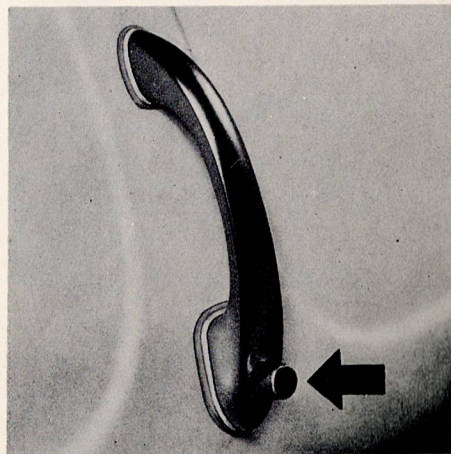
お持ちになる荷物が多くても少なくても、先ずフロントのトランク ルームに出来れば重い物から先に積んでください。重量配分を良くすればそれだけロードホールディングも良くなります。

ロックを外すには——グローブ ボックス内部にあるレバーを引きますと、スプリングの力によってフードは少し開きます。



フードを開くには——フードハンドルのボタンを押してフードを持ち上げます。

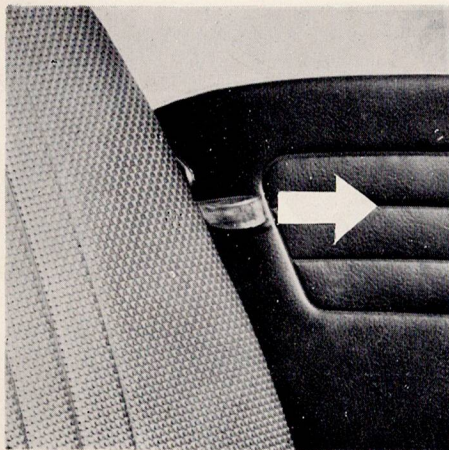
フードを閉るには——カチッという音が聞える迄、しっかりと押し下げてください。



ルーフ ラック

ルーフ ラックをご使用になれば、約50kgの荷物が更に運べます。

- ルーフ ラックは、レイン チャンネルに合ったサポートのついているものをご使用ください。
- 重量配分が平均になるように荷物を積み込んでください。

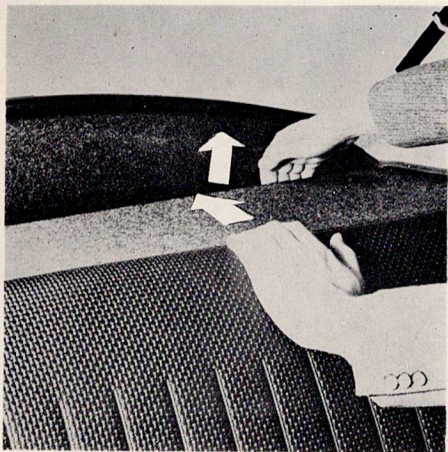


リヤ ラゲージ コンパートメント

リヤ シートのバックレストのロックについて
ロックを外すには——シートの側面のループ
を引きます。

ロックするには——バックレストを後方に
倒すだけで、自動的に
ロックします。

リヤ シートの後のラゲージ コンパートメン
トはバックレストを前に倒せば更に使いやす
くなります。



ラゲージ コンパートメントのカバー

(VW1300Sのみ)

カバーをするには——バックレストを少し前
方に引きカバーを出来
るだけ持ち上げてから
バックレストを静かに
後方に倒してください。

カバーを外すには——バックレストを前方に
倒すと、カバーはひと
りで下ります。

【ご注意】

リヤ ラゲージ コンパートメントに荷物を積
みすぎますと

- 急ブレーキを掛けた時など荷物が前方に滑
り落ち、
- リヤウインドの熱線が損傷し、
- 後方の視界を妨げ
ますのでご注意ください。

メン
やす

リヤシートバックレストを前方に倒します
と、より広くリヤ ラゲージ コンパートメン
トがご使用になれます。

【ご注意】

急ブレーキを掛けた時など荷物が前方に滑り
落ちないようにきちんと積んでください。

物を積
方に滑

リヤ ラゲージ コンパートメントの 有効な使用方法

バックレストを倒しストラップで固定するに
は：

バックレストを倒しストラップをシートサポ
ートの下にかけます。

ストラップを外すには：

ストラップの張りが弱まるようにバックレス
トを少し押し下げ、フックを外します。

ストラップの長さを調整するには：

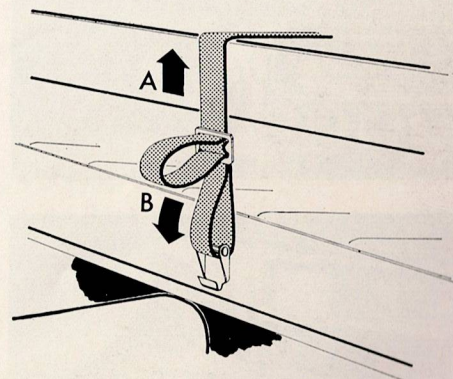
バックルから少しストラップを引き出し、そ
れを上下に動かして調整します。

ストラップを上(A)に引張りますと長くなり
ます。

ストラップを下(B)に下げますと短くなりま
す。

ストラップを調整する時にはフックは外して
おきます。

バックレストを前方に倒し少し押し気味でフ
ックがかかれば、ストラップは丁度よい長さ
です。



ラ ジ オ ヤナセ純正ナショナル自動車ラジオ CR-156AY



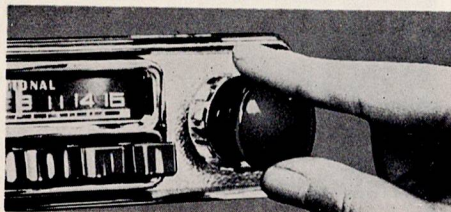
ラジオをお聴きになるときは

手動選局ツマミ

ツマミを廻す事によりお好みの放送が選べます。

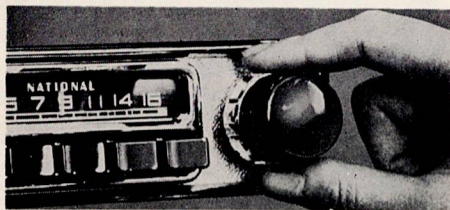
放送を受信する

選局ボタンを押して、セットされたお好みの放送を選びます。



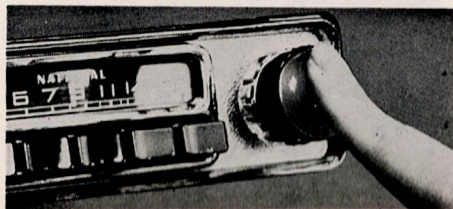
音の大きさを加減するとき

右に廻すと音が大きく、左に廻すと音が小さくなります。



音質を調節するとき

右に廻すと歯切れのよいHiFi音
左に廻すとやわらかなソフト音



スイッチを入れるときは

指先で押すとスイッチが入ります

スイッチを切るときは

もう一度電源スイッチを押してください。

選局 ボタンのセットのしかた

1. 合せようと思う選局ボタンをつまんで

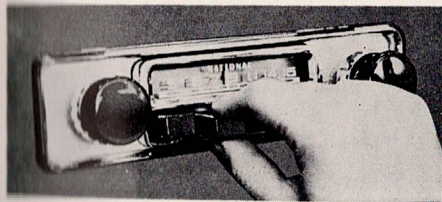
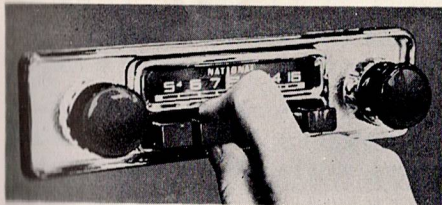
2. 引き出す

3. ツマミを廻して放送局に合わせる

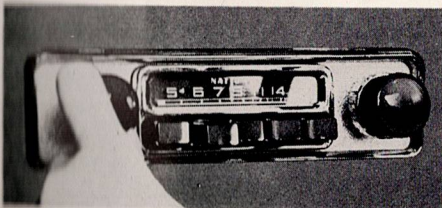
雑音が消えて、放送が最もハッキリ聞えるように合せてください。

4. 引き出したボタンを指先で静かに力強く押し込んでください。

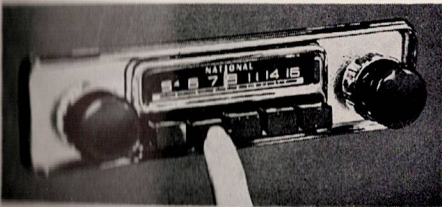
んで



り聞え



力強く



5. パチリと音のするところまで完全に押し込んでください（一番奥にとどく迄）

6. これで放送局がセットされました。他の放送局も同じようにセットしていきます。5つの放送局をセットしますと、あとは選局ボタンを押すだけで、お好きな放送を受信することができます。なお、一度セットした放送が聴き苦しくなったり他の放送局に替えたいときは、再び前の動作を繰り返してください。

〔ご注意〕

電波の強い放送局にセットする時は、アンテナを短かくして、出来るだけ弱い入力で合わせて下さい。

選局ボタンの選び方

540KC、600KC等の低い周波数の放送は、普通左側の選局ボタンを、1400KC、1600KC等の高い周波数の放送は右側の選局ボタンを選んでセットしますと便利です。

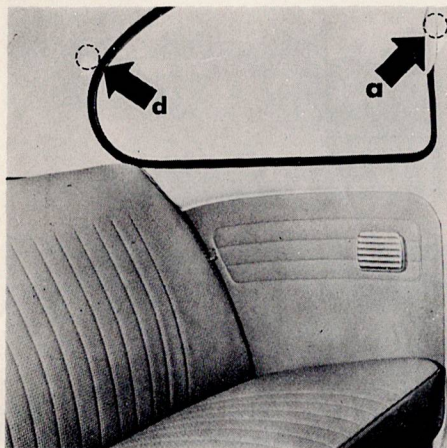
アンテナのお手入れ

洗車した後は、アンテナを完全に乾かし、グリスを軽く塗りつけてください。こうしますとアンテナを格納する際に固くなったり、曲がったりする事が防げます。

ラジオ用のフューズ

ラジオには市販されている2アンペアのフューズが使用されています。切れた場合には電気屋又はガソリンスタンド等でもお求めできます。

シート ベルト



フロント シート用ベルト取付装置：

- 上・外側取付部(a)——ロックピラー上部
- 下・外側取付部(b)——ロックピラー下部
- 下・内側取付部(c)——リヤ床面のフレーム
トンネル側面

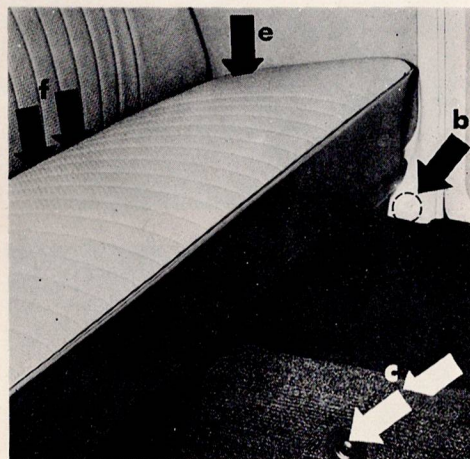
フロント シートと、リヤ シートの外側の左右二座席は、肩掛け式あるいは腹掛け式ベルトまたは三点式ベルトが取付け出来ます。

取付部分は内張りで覆われている為、左の写真で該当部分を示してあります。取付ける際には内張りに穴をあけてください。

ボディ下部の取付部分には、プラスチックのプラグが取り付けられていますが、このプラグはシート ベルトを固定させるためのものではありませんので、ご注意ください。

尚シート ベルトは、VWサービス工場で正しく取り付けてください。

シート ベルトの使用方法及び手入れについては取扱説明書第2部をご参照ください。



リヤ シート用ベルト取付装置：

- 上・外側取付部(d)——リヤ サイドウインド
後方のルーフ メン
バー上
- 下・外側取付部(e)——リヤ シート下側床面
- 下・内側取付部(f)——リヤ シート下側床面
中央部

の左
ベル
。

の写
る際

ク の
プラ
ので

正し

いて

セレクトー オートマチック

セクター オートマチック

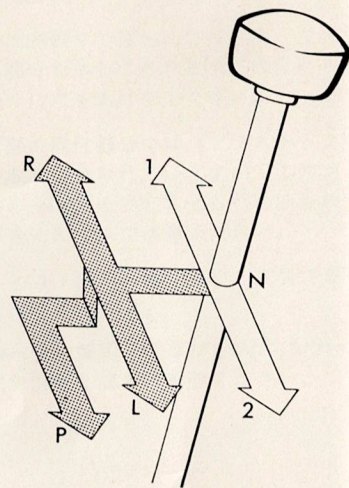
セクター オートマチック トランスミッションは、普通の前進3速ギヤ ボックスで構成されており、トルク コンバーターを介してエンジンと連結されています。トルク コンバーターとギヤ ボックスの間には真空操作式のクラッチが取り付けられていますので、ドライビング レンジを変える場合には自動的にトルク コンバーターからギヤ ボックスへの動力の伝達が中断されます。

クラッチ ペダルがありません。その替り従来のもとは比べ大変幅の広いブレーキ ペダルがついていますので、左足でブレーキの操作もできます。マニュアル トランスミッションのギヤ シフト レバーと同じ位置にセクター レバーが取り付けられています。

このオートマチックには、次の3つの基本的ルールがあります。

- スタートの際セクター レバーを操作する時には必ずフット ブレーキかハンド ブレーキをかけてください。と申しますのはエンジンがアイドル回転の時でもトランスミッションを通じて車輪にはほんの少しだけ前進しようとする力が働き、その結果車がゆっくり前に出ようとするからです。尚エンジン回転が高ければ、前に出ようとする力はより強く働きますからご注意ください。
- セクター レバーはアクセル ペダルを踏まないでエンジン回転がアイドリングに下がってから操作してください。
- 走行中には、レンジの入れ替えをする時にだけセクター レバーに手をかけるようにしてください。

と申しますのは、レンジを入れ替える時には、セクター レバーがドライビング レンジ方向に移動しますと、シフト クラッチが自動的に働き、エンジンからギヤ ボックスへの動力の伝達が中断されます。走行中不注意にもセクター レバーに力をかけたりしますと、すぐにクラッチが作動しエンジンが空転します。レバーから手が離れると再びクラッチが作動しますので、クラッチに急激に力がかかります。アクセル ペダルを踏み込み、エンジン回転を高くしておいてセクター レバーを操作した場合も同じようにクラッチに急激な力がかかりますのでご注意ください。



概要

セレクトー レバーには、次の6つのシフト位置があります。

- L } 前進用レンジ
- 1 }
- 2 }
- R - リバース
- N - ニュートラル
- P - パーキング

ニュートラルではレバーが常にレンジ1及び2の中間にあります。L又はRに入れる場合には最初レバーを左方向に押ししてください。パーキング ロック“P”にシフトする場合には最初左に一杯までレバーを動かし、押し下げて更に左に動かし後方に引っ張ってください。

操作方法

レンジ “L”

このレンジは0～55km/hの範囲でお使いください。特に、定員乗車や、トレーラーを牽引して急な坂道を走行したり、又悪路をゆっくり走るような時に適しています。従って普段はそれ程使用しなくても大丈夫です。

ドライブ レンジ “1”

このレンジはスタート又は加速の時にお使いください。スピードは0～90km/hまでです。市街地走行などには、このレンジをお勧めします。ゆっくり走る時にも、迅速に追越をする時にも大変便利です。

ドライブ レンジ “2”

このレンジは0～最高巡航速度までカバーできますので、普通ハイウェイを走る時に使います。しかし市街地でもスムーズに走れる場合とか、ややスピードが落ちる程度でしたらドライブ レンジ“2”のままVWセレクトー オートマチックは楽な運転が可能です。

しかし、スピードが絶えず変わったり、停止、発進、加速を繰り返すような交通状況では、適切にドライブ レンジ“1”にシフトしてください。

リバース レンジ “R”

リバース レンジには、車が完全に停止し、エンジン回転がアイドリング状態になってからシフトしてください。

ニュートラル“N”

普通のマニュアル トランスミッションのニュートラルと同じです。

パーキング“P”

パーキング“P”では後輪が機械的にロックされますので必ず車が停止している時にシフトしてください。

エンジン始動

セレクトー レバーが“N”の位置にある時にのみ、エンジンは始動できます。（その他の要領については、21頁をご参照ください。）

スタート

普通スタートの時には、レバーをドライブ レインジ“1”に入れてください。シフト後はすぐにレバーから手を離してください。

停止・発進の繰り返し

信号等で一時車を停止する時には、ブレーキをかけるだけで充分です。停止している間レバーをニュートラル“N”に戻す必要はありません。エンジンがアイドリング回転であれば、車はブレーキをかけるだけで停めておけます。

定員乗車や上り坂でない時、急発進をしなくてもよい時には、レバーは“2”の位置のまま発進することができます。もちろん、普通のトランスミッションの場合のようにレバーを“1”にシフトダウンして発進することをお勧めします。

山岳地帯の走行

山岳地帯を走行する時には、普通の3段トランスミッションの場合同様、エンジンが最大トルク時の回転数になるようにシフトを使い分けてください。又下り坂ではエンジン ブレーキを有効に効かせる為に必要に応じレンジ“1”又は“L”を使ってください。

駐 車

駐車の際の基本操作：

- ハンドブレーキを掛けたあとでパーキングにシフトしてください。
- ハンドブレーキを外す前にパーキングロックを外してください。

寒冷時にハンドブレーキを掛けますとブレーキシューとドラムが凍結することがありますのでパーキングロックだけをご使用ください。

ヒント：

パーキングロックだけを使用して坂道等で駐車する場合にパーキングロックを外す時にかなり強くレバーを戻さなければならない時がありますが、これはパーキングロック機構に負荷がかかるためで故障ではありません。

故障した時のエンジン始動

バッテリーがあがってしまったりして、エンジンがかからないような場合には次のようにしてください。

他の車に牽引してもらって速度が25km/hぐらいになったら、レバーを“L”に入れますとエンジンが始動します。

車を手で押しても、始動できません。と申しますのは、人間が押しただけの速度ではトルクコンバーターからトルクコンバーターを介し、エンジンを始動するだけの力が出せないからです。

牽引

牽引される時にはレバーをニュートラル“N”に入れておけば、速度は何km/hでも牽引できます。

トレーラーの牽引

取扱説明書第2部に記載されています“トレーラーの牽引”についての諸事項はオートマチック付車両の場合にもあてはまります。

次に、オートマチック付車両の場合の注意事項を記載します。

●常に発進はレンジ“L”で、そして速度が35km/hになる迄は“1”にシフトアップをしないでください。

と申しますのは、レンジ“1”で発進したり、速度が35km/hに達しないうちにシフトアップすると、トルクコンバーターが異常スリップを起し、コンバーター溶液が過熱してしまうからです。

●長い下り坂では、レンジ“L”で走るようにしてください。つまりエンジンブレーキを最大限に利用し、ブレーキを必要以上に用いないためです。勾配がそんなに急でない時にはレンジ“1”でもエンジンブレーキは効果があります。

●坂道の途中で車とトレーラーを、ハンドブレーキやフットブレーキを使わずに、ギヤを入れたまま、エンジンをふかして停車するようなことは避けてください。

と申しますのは、トルクコンバーターのオイルを過熱させることになり、更にトランスミッションの中のオイルシールにも損傷を与えることになるからです。

●ドライブレンジ“2”で走行中に警告灯が点灯した時には、直ちにレンジ“1”にシフトダウンしてください。同様にドライブレンジ“1”で点灯した時には、レンジ“L”にシフトダウンします。このようにオイルの流れを早くし、冷却効果を高めると、警告灯はしばらくして消えます。

●シフトをレンジ“L”にまで下げても警告灯が消えない場合には、適当な場所で車をとめてください。レバーをニュートラルにし、エンジンをアイドリング状態にしておきます。こうしますと、トルクコンバーターのオイルは短時間に冷却され、警告灯が消えます。しかしすぐに発進せず、しばらくそのままの状態を保っておいてください。

スピードメーター内の警告灯

トレーラーを牽引した場合には、トランスミッションに無理な力がかかりますので、トルクコンバーター内のオイルが過熱しがちです。生産ラインで牽引ブラケットが特別に装着されている車両には、スピードメーター内にトルクコンバーターオイル用の警告灯が組み込まれています。コンバーターオイルが過熱しますと警告灯が点灯しますので、ドライバーは車をとめるなり、シフトレンジを1段下げるなりして適切な措置をすることができます。

補助のフューズ

オートマチックギヤシフトクラッチのコントロールバルブは、フューズボックスのNo. 11の8Aフューズから配線されています。このフューズが飛んだ場合、ドライブレンジにシフトすることができません。

データ

ヨーロッパ諸国に於ては、技術関係の新しい国際的な単位が使用され始めていますので、以下に掲げておきます。

	旧 単 位	新 単 位	備 考
出 力	bhp	kW(キロワット)	1 bhp=0.736kW
トルク	lb. ft.	Nm(ニュートン メーター)	1 lb. ft.=1.38Nm*
回転	rpm	1 /min**	記載方法変更
空気圧	psi	bar(バール)	1 psi=0.07 kg/cm ² =0.07bar

*正確には1.36Nm

**例：2700/min.

テクニカル データ

エンジン

4 シリンダー、4 ストローク、水平対向、リヤ エンジン。ファンによる強制空冷式。ギヤ式ポンプによる強制油送、オイルクーラー付。機械式燃料ポンプ。ダウンドラフト型キャブレター、自動チョーク及び加速ポンプ付。ペーパー式エア クリーナー(1200ではオイル バス式)。

エンジンデータ	1.6リッター エンジン	1.2リッター エンジン
内 径 (mm)	85.5	77
行 程 (mm)	69	64
排 気 量 (cm ³)	1584	1192
圧 縮 比	7.5	7.0
最 高 出 力 (bhp, DIN/rpm)	50/4000	34/3600
最 大 ト ル ク (mkg, DIN/rpm)	10.8/2800	8.4/2000
燃 料 消 費 量 (DIN 70030)*	9.2(9.6**)ℓ/100km	7.5 ℓ/100km
必要オクタン価 (RON)	91	87
オイル消費量	0.5~1.0 ℓ/1000km	0.3~1.0 ℓ/1000km

*取扱説明書第2部をご参照ください **セレクトー オートマチック付車輛

動力伝達系統

マニュアル トランスミッション 乾燥単板式クラッチ、クラッチペダルの遊び10~20mm、フルシンクロ4段変速ギヤボックスと一体構造のディファレンシャル。

セレクトー オートマチック 流体式トルク コンバーター、フル シンクロ3段変速ギヤボックスと一体構造のディファレンシャル。

ボディ及びシャシー

シャシーフレームにボルト止めされている全鋼製ボディ。前部にはフレームヘッド、後部にはフレーム フォーク付のセンターチューブ式フレーム。

フロント アクスル、ステアリング

フレームヘッドにボルト止めフロント アクスル。トレーリングアームによる独立懸架、2本のトーションバーとスタビライザー付、ウオーム アンド ローラー式ステアリング。

リヤ アクスル

マニュアル トランスミッションではスイング アクスルとトーションバーによる独立懸架。
VW1300Sにはイクオリザースプリング付。

セレクトー オートマチックではトレーリング アームとダイアゴナル リンクによるダブル
ジョイント式アクスル。

ブレーキ

二回路式ドラムブレーキ、後輪作動の機械式ハンドブレーキ。

シャシー データ(設計値)		標準ホイール付車輛		スポーツ ホイール付車輛	
ホイール ベース	mm	2400		2400	
前輪トレッド	mm	1308		1322	
後輪トレッド	mm	1349		1363	
回 転 直 径	m	約11		約11	
ホイール及びタイヤ		鋼製ディスク ホイール、ダブルハンプ式			
ホイール		ドロップセンター リム			
サイズ		4 ½ J×15		5 ½ J×15	
オフセット量	mm	41		26	
タイヤ：クロス プライ		5.60-15 4 PR又は 6.00-15 4 PR (特注)		— —	
ラジアルプライ		155 SR 15		175/70 SR 15	
タイヤ空気圧		クロス プライ		ラジアル プライ	
		前 輪	後 輪	前 輪	後 輪
1 ～ 2 名乗車時	kg/cm ²	1.1	1.9	1.3	1.9
3 ～ 5 名乗車時	kg/cm ²	1.3	1.9	1.3	1.9

次のような場合には空気圧を0.2kg/cm²だけ増してください。

- 冬期用タイヤ装着時(クロスプライ又はラジアルプライを対象)
- 長距離高速走行時(クロスプライタイヤを対象)

電気系統

電 圧	12ボルト
バッテリー	45Ah
スターター	0.7bhp (セレクトー オートマチック付0.8bhp)
ジェネレーター	ボルテージ レギュレーター付ACジェネレーター
出力	700W
スパークプラグ	ボッシュ W145T1, ベル 145/14, チャンピオン L88A 又は他のメーカーのこれに相応するプラグ 平均気温が25℃以上の地方を長距離高速運転される場合にはボッシュ W175T1, ベル 175/14 というようにヒートレインジの高いプラグの使用をお勧めします。
プラグ スレッド	14mm
プラグ ギャップ	0.7mm

バルブ一覧表 (V=ボルト, W=ワット)

使 用 箇 所	ド イ ツ 規 格	V W パ ー ツ 番 号
ヘッドライト	A 12V 45/40W	N 17 705 3
スモールライト	HL 12V 4 W	N 17 717 2
方向指示灯	RL 12V 21W	N 17 732 2
ブレーキ/テールライト	SL 12V 21/5W	N 17 738 2
番 号 灯	G 12V 10W	N 17 719 2
ルーム ライト	K 12V 10W	N 17 723 2
バックアップライト	RL 12V 21W	N 17 732 2

VWサービス工場にて販売していますスペア バルブセットを常に車に入れておかれると便利です。

VW1200LS/1300S用
ファンベルト

9.5×900LA"DA"

9.5×905LA"DA"

9.5×905LA"XDA"

新しいファンベルトの張り* 9~11mm

使用中のファンベルトの張り* 11~14mm

VW1200用ファンベルト

9.1×900mm ベルトの張り* 15mm

*) ベルト中央部を指で押した場合のたわみ量

寸法及び重量(設計値)

		VW1300	VW1200
全	長 (mm)	4060	4060
全	巾 (mm)	1550	1550
全	高 (mm)	1500	1500
最 低 地 上 高	(mm)	150	150
空 車 重 量	(kg)	820	760
最 大 荷 重	(kg)	380	380
車 両 総 重 量	(kg)	1200	1140
前 軸 荷 重	(kg)	490	490
後 軸 荷 重	(kg)	730	710

ルーフラック積載及び牽引重量

ルーフラック積載荷重

50kg(レイン チャンネル取付式ルーフラックを使用し、重量配分を均一にしてください)

牽引重量

ブレーキ無

400kg

ブレーキ付

650kg

フック許容荷重

25~40kg

性能

		モデル	VW 1200	VW 1200LS	VW 1300S
		エンジン	1.2 ℓ	1.6 ℓ	1.6 ℓ

最高巡航速度

マニュアル トランスミッション付車輛	km/h	115	130	130
セレクトー オートマチック付車輛	km/h	—	—	125

登坂能力(%)

マニュアルトランスミッション付車輛	第1速	41	42	42	乗員2名で良好な路面状態
	第2速	21	22	22	
	第3速	12	12	12	
	第4速	7	8	8	
セレクトーオートマチック付車輛	レンジ L	—	—	35.5	乗員2名で良好な路面状態
	レンジ 1	—	—	29	
	レンジ 2	—	—	20.5	

容量

燃料タンク	リッター	約40	約40	約40
エンジンオイル	リッター*	2.5	2.5	2.5

マニュアル トランスミッション:

ギヤボックス及びファイナルドライブ:

容量	リッター**	3.0	3.0	3.0
交換時	リッター**	2.5	2.5	2.5

セレクトー オートマチック:

コンバーター	リッター***	—	—	3.6
ギヤボックス及びファイナルドライブ	リッター**	—	—	3.0

オイルバス式エアクリナー	リッター	0.25	—	—
--------------	------	------	---	---

ウインドシールドウォッシャー

容量	リッター	1.7	1.7	1.7
空気圧	kg/cm ²	3	3	3

* ガソリンエンジン用HDオイル

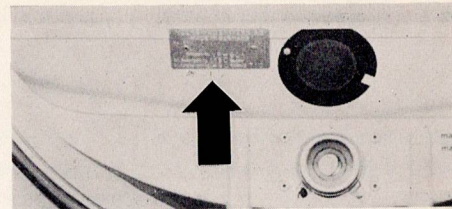
** ハイポイド トランスミッション オイル

*** Dexron テストマーク付ATF

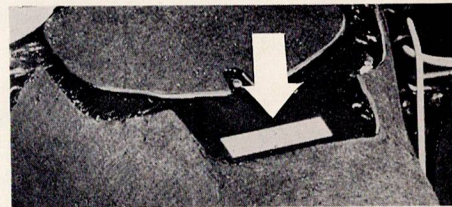
詳細については取扱説明書第2部を
ご参照ください。

識別プレート、シャシー及びエンジン ナンバー

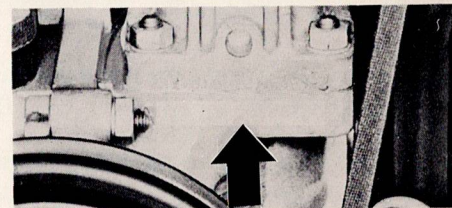
識別プレートはフロント フードの下、スペア
タイヤの後にあります。



シャシー ナンバーはリヤ シートの下、フレ
ームトンネルに打刻されています。



エンジン ナンバーはジェネレーターサポート
のクランクケース フランジ部に打刻されてい
ます。



車についてのクイズ

●どんな燃料を使用すべきでしょうか？

VW1200——1.2リッターエンジン：レギュラーガソリン，最低必要オクタン価 87 RON
VW1200LS／1300S——1.6リッターエンジン：レギュラーガソリン，最低必要オクタン
価 91 RON又はハイオクタンガソリン

●エンジン オイルの種類は？

ガソリン エンジン用HDオイル（詳細は取扱説明書第2部に記載してあります。）

●ディップ スティックの最高—最低マークの間のオイル量は？

1.25リッター

●エンジン オイルはどのくらいで交換すべきでしょうか？

6ヶ月毎又は少くとも1000km，5000km時及び以後5000km毎。オイル量は2.5リッターです。

●エアクリーナーのフィルターはどのくらいで掃除すべきでしょうか？

ろ紙又はオイルバス式のオイル交換時期は，30,000km毎です。

●ギヤ ボックス及びファイナル ドライブにはどんなオイルを使用すべきでしょうか？

MIL-L-2105指定のハイポイド オイルSAE 80（硫黄磷基材）
又は-25℃以下になる極寒地方ではATF

●セレクトー オートマチックには何を使用すべきでしょうか？

a—トルク コンバーター：年間を通じB 10 100のようなDexron テストマークのついているATF
b—ギヤボックス及びファイナル ドライブ：マニュアル トランスミッションと同じ。

●ギヤ ボックス及びファイナル ドライブのオイルはいつ交換すべきでしょうか？

1000km時のみ

●セレクトー オートマチックのオイルはいつ交換すべきでしょうか？

a—トルクコンバーター：ATFは交換の必要がありません。
b—ギヤ ボックス及びファイナル ドライブ：1000km時

●フロント アクスルの給油時期は？

30,000km毎または少くとも年1回

●ブレーキ オイル リザーバーにはどのくらいまでブレーキ オイルが入っているべきでしょうか？

●冬期不凍液が必要でしょうか？

●どんなスパーク プラグを使用すべきでしょうか？

●ファン ベルトの張りは？

●ホイール ボルトの締付トルクは？

●正しいタイヤ空気圧は？

●フューズはどこについていますか？

リザーバーの周りの接合部分以下になってはいけません。

ウインドシールドウォッシャー用にのみ必要です。ウインドクリーナーを充分水に混ぜておけばウォッシャーは常に作動します。コンテナの容量については40頁をご参照ください。

ボッシュW145T 1, ベル145/14, チャンピオンL88A又は他のメーカーのこれに相応するプラグ。(38頁をご参照ください) プラグは20000 km 毎に交換しましょう。

VW1200——15mm

VW1200LS/1300S——新しいベルト——9～11mm
使用中のベルト——11～14mm

ベルトの張り＝ベルト中央部を指で押した場合のたわみ量

12～13mkg

グローブ ボックスの蓋の内側のステッカーに記載してあります。
(テクニカル データ, 37 頁もご参照ください。)

スベア タイヤ：3 kg/cm²

上記空気圧はタイヤが冷えている場合の数値です。高速運転をした場合、熱のために空気圧が多少高くなりますが抜く必要はありません。

ダッシュ パネル右側下部

エンジン ルーム内又はリヤ シート下部に補助のフューズ ホルダーがあります。



総輸入元 株式会社ヤナセ
フォルクスワーゲン・アウディ事業部
東京都港区芝浦一丁目6-38
〒105 TEL03(452)4311

3.80.561.031.20.9.73.8700